

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2370401164
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会
事業所名	グループホーム 中小田井
訪問調査日	平成20年8月20日
評価確定日	平成20年9月22日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2370401164		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム 中小田井		
所在地	名古屋市西区中小田井五丁目240番地 (電話) 052-509-7717		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月22日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.88 歳	最低	56 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	康友クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名鉄犬山線中小田井駅から沿線徒歩5分の距離にグループホーム中小田井は建っている。管理者は異動してきて半年であり、ホームの長所や欠点、各職員の資質などが明確になりつつある中、改善にも取り組んでいる。管理者としては職員に考えて行動してもらえよう、自らは極力口を出さないようにしている。他のホームや介護施設を知らない職員も多いことから、その長所を認めつつもデメリットの克服に外部評価を利用しようと前向きに取り組んでいる。法人の理念がお年寄り中心をモットーとしており、それが十分にケアに生かされていると職員も自負しており、家族からの評価も高い。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善事項ではないが、家族からの要望により献立表を玄関に置くようにしたら、家族が来訪の際に持ち帰ってくれるようになった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価について、取り繕わないでいつもの姿をいつものやり方で調査員に見てもらおうと職員に伝えた。訪問時にも、「気がついたことは遠慮なく指摘してほしい」と話され、意欲的に取り組んでいることがうかがえた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者、家族、民生委員、特別養護老人ホームのケアマネジャー、他のグループホーム管理者をメンバーとし、隔月に開催されている。メンバーから出された意見は、職員会議で検討し報告されている。民生委員に防災訓練を実際に見てもらい、職員では気づかないさまざまな助言を受け、危機管理意識について大変勉強になった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	来訪時には家族から積極的に要望を聞き、入居者の日常の様子を細かく報告している。日常的な会話はあがるが、ホームに任せているからと遠慮される家族もあり、意見や要望を気軽に話されることが少ない。職員は家族と日常的な会話はできるが、入居者の問題点の開示、家族の要望の聴取については職員間の資質の差がみられ、すべての職員が聞き出す術を身につけられるよう、取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、老人会に参加し自治会の保健委員を引き受け、週1回地域のゴミの分別に取り組んでいる。近所からお裾分けをいただいたり、買い物時には行きかう人々と挨拶を交わしホームの催事にお誘いしたりしている。隣人からは「マンションを建てられるより、こういう施設が来てくれてよかった」という言葉もあり、理解を得られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度の外部評価を受け、理念を見直し『地域の一員として穏やかな自立した生活をしていただくように支援する』と付加した。問題解決の際にも、どの方法が一番理念に忠実なのか、職員一同で協議し理念を再確認しながら対処している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はいつも職員に、お年寄りの立場になって行動するよう指導し、ホームが入居者の終の棲家であり、少しでも笑顔で過ごしていただくことが理念の実現化と信じている。問題があった時は職員が理念に沿った解決方法にたどりつけるように管理者がリードしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、老人会に参加し自治会の保健委員を引き受け、週1回地域のゴミの分別に取り組んでいる。近所からお裾分けをいただいたり、買い物時には行きかう人々と挨拶を交わしホームの催事にお誘いしたりしている。隣人からは「マンションを建てられるより、こういう施設が来てくれたよかったです」という言葉もあり、理解を得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価について、取り繕わないでいつもの姿をいつものやり方で調査員に見てもらおうと職員に伝えた。訪問時にも、「気がついたことは遠慮なく指摘してほしい」と話され、意欲的に取り組んでいることがうかがえた。自己評価を見て各職員のレベルや能力の違いが分かり、職員の資質向上に意欲を燃やしている。評価については、運営推進委員会でも報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者、家族、民生委員、特別養護老人ホームのケアマネジャー、他のグループホーム管理者をメンバーとし、隔月に開催されている。メンバーから出された意見は、職員会議で検討し報告されている。民生委員に防災訓練を実際に見てもらい、職員では気づかないさまざまな助言を受け、危機管理意識について大変勉強になった。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームは市から要介護認定の調査を受託しており、ホームからケアマネジャーが業務として調査をしている。認知症に関する講演会を地域包括支援センターの要請で開催する予定をしている。判断に困った時は、すぐに役所に出かけ相談している。医師の指示により入居者に点滴が必要となり、その行為の是非、医療的対応、介護保険の対象となるか等、行政に継続的に確認し対処している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>体調変化の際はすぐに家族に報告し、家族の来訪時には最近の様子を仔細にわたり伝えている。日帰り旅行の招待状を家族にも配布し、参加を促している。また、来訪時には積極的に介護計画や記録、写真などを見てもらっている。隔月で家族に送付するホーム便りには入居者ごとの担当者から一言ずつ近況が添えられている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時には家族から積極的に要望を聞き、入居者の日常の様子を細かく報告している。日常的な会話はあるが、ホームに任せているからと遠慮される家族もあり、意見や要望を気軽に話されることが少ない。職員は家族と日常的な会話はできるが、入居者の問題点の開示、家族の要望の聴取については職員間の資質の差がみられ、すべての職員が聞きだす術を身につけられるよう、取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期異動はない。職員の定着率も高く開設時からの職員が多数いる。そのため、ホーム内の業務は滞りなく進んでいる。過去に突然退職したケースもあり、職員にも余裕があったため現存職員で調整した。突然の退職でもユニット間での職員の異動でカバーするため、入居者にも他のユニット職員の顔を覚えてもらい不穏にならないよう、職員のユニット間異動を計画している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修計画が立てられている。職員は勤務扱いで研修に参加しており、研修の内容は回覧して情報の共有に努めている。職員は自主的に外部講習にも参加しスキルアップに取り組んでいる。パート職員にも研修参加の機会はあるが、参加を強制することはない。資格取得者には資格手当が支給される制度がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流は緊密にされているがその他のホームとはあまり付き合いがない。外部の講習に管理者などが出かけることがあり、その時に他の施設長に相談することはある。他のグループホームを見学し参考にしたことはある。		管理者のみでなく、職員も含めて他のグループホームとの交流や、情報を交換できる機会は、サービスの質の向上にも繋がる。『中小田井』をさらに良くするための機能を強化する取り組みに期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会はいつでも受け入れ可能である。体験宿泊はないが、日中の体験利用を勧めている。職員は極力入居希望者の家庭に出向き、その環境、家族構成、本人の来歴、趣味、特技などの情報を取得している。病院から入居される場合は、家族だけでなくケアマネジャーからも情報を提供してもらい、本人の病状や留意点などを取得している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や配膳、下膳、洗濯物たたみなど、本人の持てる力を引き出し残存能力の維持に努めている。訪問時にも調理をしている入居者の姿が見受けられた。他の入居者の介助が得意な入居者があり、訪問時にも職員に見守られ甲斐甲斐しく他の入居者をお世話し、相手も安心して身を任せている2人の姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		<p>現状の生活維持のための情報収集だけでなく、意思疎通できない入居者の真意を探る方法や、家族からの情報収集により本人の願望を引き出す対応を職員全体で取り組まれない。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月全体職員会議を開催している。職員の気づきやケアに対するアイデアは申し送りノートに記載し、全職員で情報を共有している。介護計画には長期と短期の目標が設けられ、その結果を話し合い、本人本位のケアの実施に取り組んでいる。介護計画の様式は備えられているが、計画の作成に職員の意見や気づき、入居者本人や家族の思い、要望など反映させる状況には至っていない。</p>		<p>介護計画の作成には、入居者の現状を最も把握している職員の参加と共に、その重要性を認識する必要があり、家族、入居者の要望を聴き、職員全体で話し合い、本人本位の介護計画の作成に期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月の全体職員会議でカンファレンスを行い、入居者の状態を全職員で把握し、現状に即したケアを行っているが、介護計画には反映されておらず、見直しにも至っていない。家族の来訪時には施設長が対応し、入居者のホームでの様子や暮らしぶりを説明し、家族からの要望、気づきを聞くようにしている。</p>		<p>介護計画はサービスの基本となるものであり、入居者の状況に応じた適切なケアが実施されていても、介護計画が伴っていないことは、評価や見直しには繋がりにくい。入居者本人、家族、職員の意見を反映した介護計画の作成と共に、見直しについても検討されることを期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地区民生委員から認知症の対応などの相談を受けたり、運営について協力をお願いする関係ができている。ホームは医療連携体制加算を受けており、毎週看護師による健康チェックが行われ、24時間体制で入居者の健康管理への配慮がされている。今後、地域住民の要望もあり、多機能性を活かしてショートステイやデイサービスを行いたいと考えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医かホームの協力医を選択してもらっている。かかりつけ医への受診は原則、家族に対応をお願いしているが、要望がある時はホームで支援している。入院した場合は、可能な限り情報提供し、見舞いに行くなどして情報交換をし、早期退院に繋げている。内科医の往診は2週間に1回あり、歯科医は基本的に週1回往診があり、必要時にはその都度往診を受けている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化の指針として「医療連携対応及び重度化対応指針同意書」があり、入居時に本人や家族に説明している。重度化の対応については、管理者と職員間では話し合っている。家族へは協力医から説明してもらっている。看取りの経験はないが、今後入居者の状態に合わせて、家族、協力医、看護師、職員との話し合いを行い、ホームとしてできる限りの対応をしたいと考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについて、日常的に話し合うことはないが、開設時からの職員が多く、入社時にプライバシー及び関連する法令について説明し、周知徹底が図られている。日々のケアに活かされており、記録は入居者から見えないところで記入し、書類の破棄はシュレッダー処理を行っている。人前での声かけは本人を傷つけないよう配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人差はあるが多い人はほとんど毎日外出したり、買い物に行ったりしている。喫煙は可能だが現在喫煙者はいない。飲酒も医師の制限がない限り楽しめる。ちぎり絵は日常的に行い、法人内の作品展にも出品している。手紙を書く趣味の入居者があり、いつでも書けるように切手や封筒を準備している。美容師のカット、パーマなどもすべて本人の希望に任せている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできることは職員と一緒にいき、食材の買い物、下準備、調理、片付けなどを行っている。月1回のバイキングや選択メニューの日を実施したり、ベランダでバーベキューやうなぎを焼くなど、入居者の希望や好みを取り入れる配慮をしている。食事中は職員も一緒に食べ、さりげない声かけをしたり、話しをしたり食事を楽しむ雰囲気づくりがされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はほぼ毎日行き、時間は基本的に午後となっている。行事に合わせて午前の時もあり、必要な時にはシャワー浴で対応している。入浴を望まない方には2、3日を目途に声かけなどに工夫して、入浴を支援している。また、菖蒲やハーブなどを利用し、季節感や目先を変えることで入浴を楽しめるよう配慮している。入居者の体調や状態に合わせて、複数の職員で支援するなど、一人ひとりゆったりと入れるよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年に1回、法人内合同で作品展が開かれ、入居者と職員が共同でちぎり絵、紙細工などの作品を作っている。それぞれの得意なところを担当したり、縫い物などを自分の役割として日々取り組んでいる。外出行事として水族館などへ出かけたり、外食を楽しんでいる。また、ホームのテラスでお茶を飲んだり、喫茶店を開催するなどして楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は天候によって行き先など変更するが、基本的に毎日行っており、外出をしたがらない方には、用事を作るなどして出かけている。また、買い物時に支払いを自分で行う入居者もいる。年1回家族同行の日帰り旅行を実施しており、入居者が楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人として鍵をかけない暮らしを実践しており、こうした方針を職員全員が理解し、夜間は防犯のため施錠している。新規入居者や帰宅願望の強い方がいる時には、落ち着くまでフロアのドアのみ施錠し、職員は常に入居者を見守り、玄関のチャイムやフロアドアのベルに頼ることのないケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時のマニュアル及び連絡体制は整備されている。4月には地震を、8月には火災を想定して避難訓練を職員、入居者で行い、9月には防災訓練を予定している。訓練から災害時にはエレベーターの使用が不可となることから、階段での避難となり入居者の安全確保の方法と用具を検討している。消防署への報告もしている。非常用備蓄用品は3日分を確保している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は担当職員が1カ月単位で作り、法人内の管理栄養士がチェックをしており、質、量ともバランスの良い季節感のある食事内容となっている。毎月入居者の体重測定を行い、協力医のチェックを受け健康管理に配慮している。現在のところ治療食が必要な入居者はいないが、状況に応じた食事の対応も可能である。水分摂取量は職員が注意しながら1日1以上を目安にしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は一般の家庭のような造りがされており、リビングは広く、談話コーナーには大きなソファやテレビが置かれ、ソファでは新聞を見ている人もいる。また、食堂には和室コーナーがあり、入居者の寛ぎの場になっている。玄関、廊下、リビングには、入居者と職員の共同制作の季節のちぎり絵や行事の写りが飾られている。玄関脇の花壇や庭には、季節の花やハーブが植えられ、入居者が水やりをするなどして育て、リビングに飾っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、エアコンと椅子、防災カーテンが備えられ、その他は入居者の使い慣れたベッドや家具などが持ち込まれ、家族と相談しながら安全に配慮して配置されている。ベッドは入居者の状態に応じて、介護ベッドをリースすることができるようになっている。居室の壁には気の合った入居者との写真や家族の写真が飾られている。空調の調節は入居者が行っているが、職員がさりげなく確認をして、快適な生活環境づくりに配慮している。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。